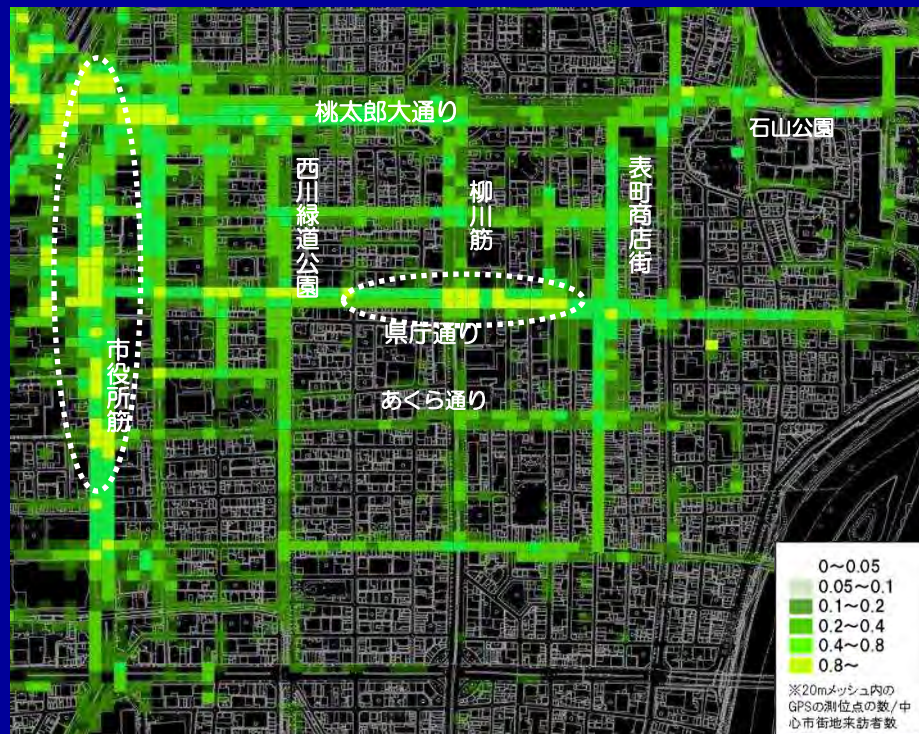


5. 調査結果

■ 徒歩による回遊経路

- 通常時は、市役所筋、県庁通りの移動が多い
- 社会実験時には、県庁通り、西川緑道公園筋、表町商店街を移動する割合が増加

【通常時の来訪者の徒歩移動状況】



N=434人

【社会実験時の来訪者の徒歩移動状況】



N=466人

※以下を20メッシュ単位で集計して図化
色の濃い場所は来訪者が徒歩で回遊する傾向が強い場所を示す

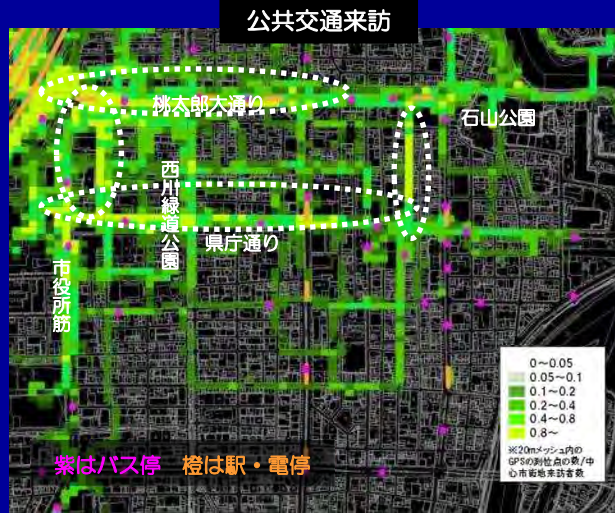
$$\text{徒歩回遊の密度を表す指標} = \frac{\text{該当する来訪者数が徒歩で移動中に測位されたGPSの点の数}}{\text{該当する来訪者数}}$$

5. 調査結果

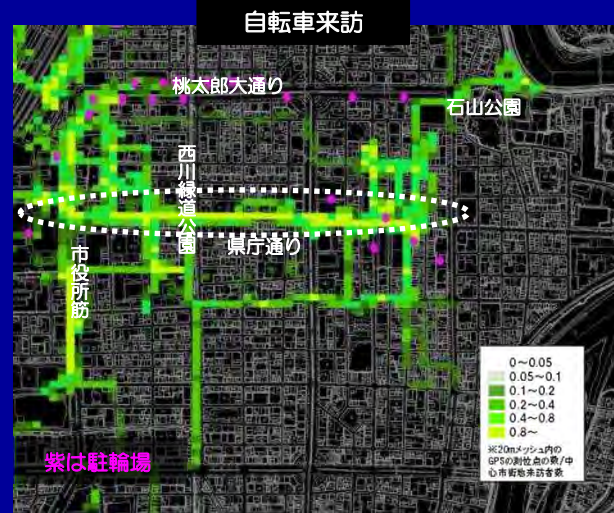
■ 徒歩による回遊経路(来訪交通手段別)

- 社会実験により、**自動車による来訪者が、西川緑道公園、県庁通り、石山公園への移動を増加**

【通常時】



N=95人



N=50人

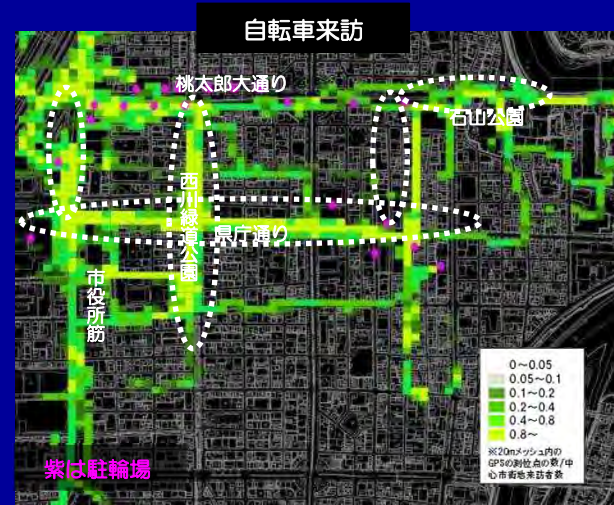


N=97人

【社会実験時】



N=127人



N=33人



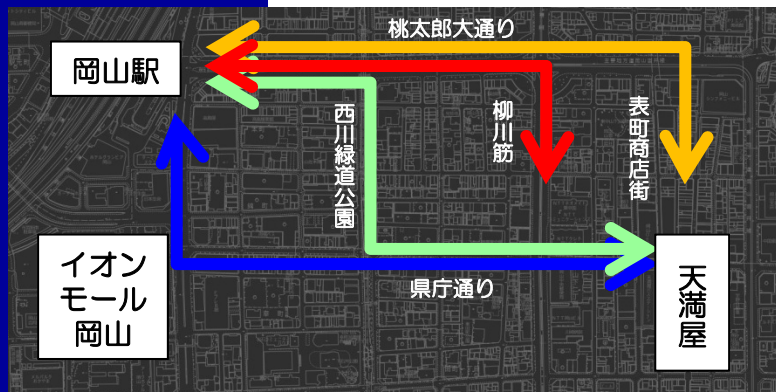
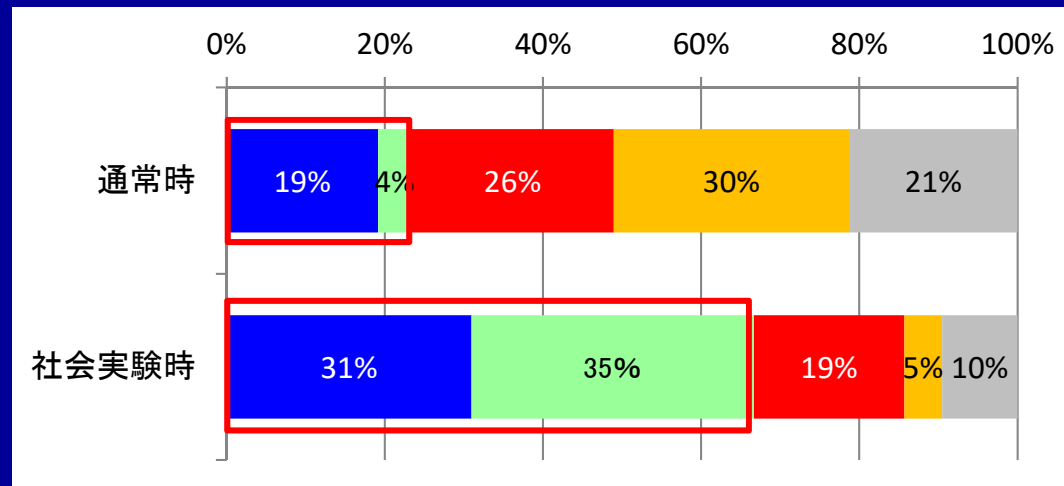
N=93人

5. 調査結果

■ 徒歩の回遊経路の変化(岡山駅⇔天満屋間)

- 通常時では、桃太郎大通り⇔柳川筋や表町商店街⇔天満屋の経路の割合が大
- 社会実験時では、西川緑道公園⇔県庁通り⇔天満屋の経路の割合が増加
- イオンモール岡山⇔県庁通り⇔天満屋の経路の割合も増加

【岡山駅⇔天満屋の経路の利用割合の変化】



- 青：イオン付近から県庁通りを通るルート
- 赤：桃太郎大通りを通り、柳川筋から天満屋に至るルート
- 橙：桃太郎大通りを通り、表町商店街から天満屋に至るルート
- 緑：西川緑道公園を經由し、県庁通りを通るルート
- 灰：上記以外の細街路を通過するルート

6. 調査結果のまとめ

- 社会実験時には、「岡山駅前エリア」と「表町エリア」との結びつきが強化
- イベント等が開催されていた西川緑道公園、下石井公園、石山公園、県庁通りなどでの立ち寄りや滞在時間が増加
- 併せて、周辺为天満屋周辺、岡山城・後樂園でも増加⇒波及効果
- 立ち寄りや滞在時間の増加は、主に50歳代以上の人
- 社会実験時は、自動車来訪者の回遊性が向上
- 岡山駅（岡山駅前エリア）⇔天満屋（表町エリア）の徒歩の回遊経路は、通常時は分散、社会実験時は西川緑道や県庁通りを経由する軸が形成

7. 反省点

■データについて

- 移動時の出発、到着の度にスマートフォンにタップしてもらったようにしていたため、参加者数に対し、一日の動きがすべて把握できる人数が少なくなった。

項目	参加者数	データが有効な参加者数	一日の動きがすべて把握(A)	(A)のうち私用目的
通常時	1,418	1,260	561	449
社会実験時	1,018	889	249	223

- ある程度のサンプル数を確保すれば、大きな傾向が掴めるのではないかと考えていたが、通常時の動きは分散しており、社会実験時のデータが無ければ、分析が難しかった。
- 人気のある穴場的なスポットを把握しようと考えていたが、GPSで把握したポイントが分散しており、ピンポイントでの特定が難しかった。

対象を絞って調査することや、必要最小限のサンプル数を考えることが必要

7. 反省点

■移動の要因の把握について

- どういった理由で動いているかといったことは、データ整理後、推測で考えるしかない。
- データが詳細であるほど「何故」という疑問が出る。
 - 何故、その箇所立ち寄ったか
 - 何故、その箇所に長く滞留したか
 - 何故、その経路を選択したのか
 - 何故、社会実験時に回遊距離が伸びたのか etc

直後のアンケート調査に力を入れておくことが必要



ご静聴ありがとうございました。